
蛇粘くん

ぬじゅわきし

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

蛇粘くん

【著者名】

ぬじゅわきし

ZZード

ZZ355Z

【作者名】

【あらすじ】

杉山蛇粘蛇のように粘り強い子になりますようにといつ願いをこめられてつけられた奇妙な名をつけられた彼の、名前がゆえに起きた悲劇とは…

杉山蛇粘じやねんといつ少年がいた。奇妙な名前だったが、虐めといつわけでなく、「蛇のようくに粘りのある強い子になりますよ」という両親の願いが込められていた。実際、その通りだったが、しかしその名前ゆえに悲劇が起きる事など、馬鹿な両親には予想もできなかつた。

幸い彼はクラスの皆から苛められる事はなかつた。クラス自体が良かったからであり、また、彼自身も好かれたからだ。彼のあだ名は、名前と同じ、「じゃねん」だった。これが悲劇を生んだのである。

ある日の帰り道。蛇粘と親しい友人の畠田秋子が一緒に帰つていた。彼女は畠田といつ名前ゆえに「野菜ちゃん」というあだ名があつた。

「明日の授業わかる？野菜ちゃん。」

「明日は…体育と数学と国語とかしらね。」

「ありがとう。」

「あ、そろそろお別れだ。」

「ほんとだ！」

「それじゃ。じゃーねー。」

「なに？」

「だからじやーねー。」

「だから何だい？野菜ちゃん。」

「え？」

「呼んだじゃないか。」

畠田は気づいた。彼の名前は蛇粘だ。「じゃーね」が「蛇一粘」と呼んでこるよに聞こえたのだろう。

「名前じゃないわよ。ただの別れの挨拶。」

「あ、そつか。」

「人は分かり合い、夕空を背景に畠田は言った。

「じゃあ、じゃーね！」

「呼んだかい？」

「違うわよ！しつこいね。」

「あ、そつか。」

しばらくして彼は帰り道を走つて行つた。背後から「じゃーねん！」と聞こえたが挨拶だと思い彼は無視して言つた。

畠田は「蛇一粘！」と呼んだが彼は反応してくれなかつた。走る時、財布落としたから呼び止めたのに…大丈夫かしら…とりあえず畠田は財布を拾つて預けた。

このように彼は名前ゆえに勘違いする事が多かつた。だいいち、東京には「じゃね」という語尾が多くなるのだ。「馬鹿蛇粘？」「力ス蛇粘？」「蛇パ粘ツト」と意図せずして名前が上げられるのは彼としてもいい気分ではない。

だがある日。

蛇粘は柔道部に入つていたが、その顧問が少し宗教めいた厳つい禿げたおっさんで、合宿と称して、山奥に部員を修行させた。

その日は顧問は、谷に面する山小屋で部員に座禅を命じた。皆はじつと座つている。一人、吉外という部員が「うつ」と呻きながら動いてしまつた。顧問はばしゃん！と竹刀で叩いて言つた。

「修行が足りん！貴様ら、こんなんでは試合でも集中力を發揮でき

「ねぞ！吉外！」

「はい！」

「邪念を捨てて集中しろ！」

吉外は師の言葉をゆっくり噛み締めた。邪念を捨てる……じゃねんを捨てる……蛇粘を捨てる……

突然吉外は座禅する蛇粘を抱え、谷の底へ投げ捨てた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7355n/>

蛇粘くん

2010年10月9日06時39分発行